

原発事故と食の安全 (5)

季節外れのスギ花粉症も過ぎ、10月8日頃より黄砂アレルギーが見られるようになりました。気の早いケヤキ、シイ花粉症も見られるようになりました。

放射性セシウムに対するアレルギーは、とても個人差が大きく、同じものを食べている家族でもなんともない人から症状の出ている人まで様々です。これまでお伝えしていますように、食材選びや除染等に取り組んでいかれますと、早い方で2週間から長くても3~4ヶ月位で症状は消えていきます。同時に放射性セシウムに対する過敏度も減っていきます。ところが汚染度の高い物を食べるとすぐに再発が見られます。二度目なので対策もすぐ取れるし、大抵の方が原因食材の見当もつくようです。食材では魚類の汚染度測定がほとんどなされていません。特に被害の大きいプルトニウム・ストロンチウムが全く調べられていませんので、今後注意が必要です。また、国産の塩の一部にも注意しなければならないものが出てきています。

放射性物質が体に入ってくると免疫力が低下し、感染症にかかりやすく、重症化しやすいようです。これからインフルエンザ等の流行期になりますので気をつけましょう。

風評被害と言いますが、生産者も放射能汚染されているものを売りたいくはないし、消費者も買いたくない。測定しても20~100ベクレル/kg程度を測定限界として“不検出”としたり、検出していても数値では出さず“基準値以下”では到底信用することはできないでしょう。測定限界を1ベクレル未満とし、測定結果を食品毎に表示すること。ドイツ放射線防護協会では子供は4ベクレル/kg以下を大人は8ベクレル/kg以下を勧告しています。妊婦さんや乳幼児は1ベクレル以下にしたいですし、大人や年配者は、自分の体質や考え方で選ぶこともできます。広く測定できるように、多くの測定機器を設置し、測定できる体制を早急に整えてほしいものです。敦賀の稼働していない“もんじゅ”のナトリウム冷却に1日5,500万円使っているのです。放射能測定の為に必要な経費は充分に出してほしい。そして測定値を明らかにして市場に出してほしい。

いつも佐久平の無農薬特別栽培米産直をお勧めしていますが、汚染状況が気がかりでした。新米を送ってもらい、鳥津テクノリサーチに1ベクレル未満まで測定を依頼しました。「充分に長くやっても検出できないのですが…」とお返事をもらい、1ベクレル未満と確定し安心しました。毎日の主食、家族みんなで食べるものが500ベクレルの基準値とはあまりに高いと思います。

先日、京都シネマで「チェルノブイリ・ハート」を観ました。チェルノブイリから100km~400kmの所でも甲状腺がんや先天性の心臓病が多発、肢体不自由児の出生率は25倍に膨れ上がり、新生児で何らかの異常を持つ者は85%にのぼるといわれ、それも増え続けているというのです。治療の見込みのない先天異常の子供たちの姿が脳裏に焼き付いて離れません。「直ちに健康被害は起こらない」という専門家や政府関係者には、これを観る義務があると思います。日本でこのような事が起こらないように祈ります。